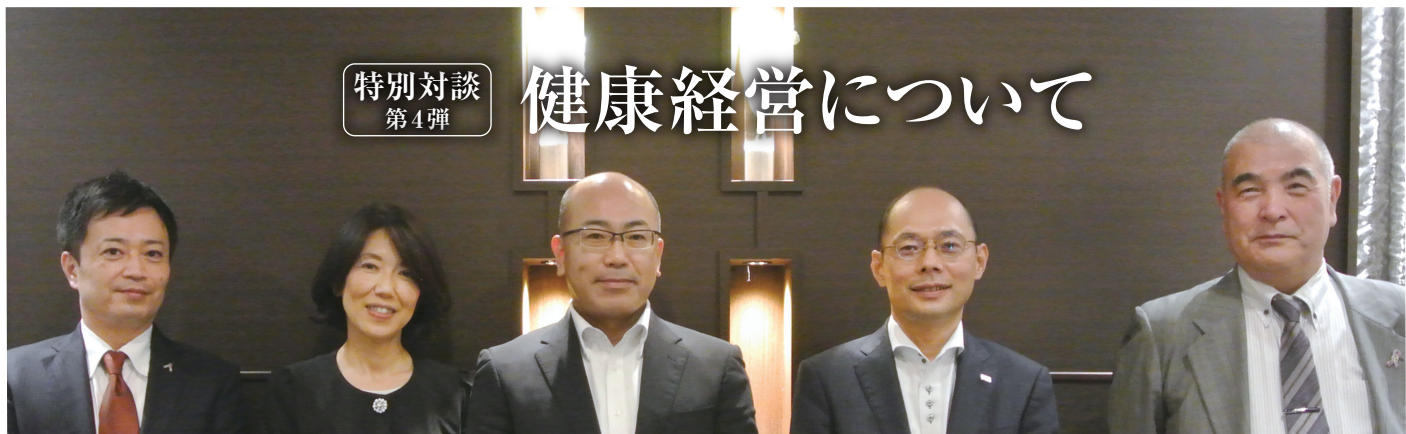




株式会社TOKAIホールディングス(以下、TOKAI)は、このたび「健康経営銘柄」に初選定されました。
また、「健康経営優良法人2020～ホワイト500」に4年連続認定されました。

健康経営の取り組みについて

中西 2014年度から、私ども聖隷福祉事業団保健事業部へ産業医および定期健康診断、労働衛生コンサルタントをご依頼いただき、健康経営に一丸となって取り組んでいます。健康経営を導入される前と後で、比較してどのような変化がございましたか。



沼野部長 健康経営を導入する前は、健康診断の結果にはフォーカスを当てられていませんでした。どちらかというと、メンタルヘルスにフォーカスを当てていました。約5年前に健康診断の医療機関を変える機会があり、聖隷さんにお会いして初めて「健康経営」という言葉を聞きました。健康経営は、「従業員の幸せ」の根幹になると理解しました。導入前は、恐らく私も含め、従業員のみなさんも健康への意識は非常に低かったです。そこから比べると、導入した後は、見違えるように意識が変わっています。そういった面でも導入してよかったと思っています。

井水常務 健康経営は、健康保険組合(以下、健保)にとりまして、医療費が削減され非常にメリットがあります。健康経営を推進するということは、企業にとっても生産性が上がったり、企業イメージが上がったりと、大きな効果が得られます。また、企業におけるリスクマネジメントとしても重要なのですが、経営者がその重要性を感じていただけないと一部の担当者が動いても健康経営は推進されていきません。どこの企業においても、健保の主導ではなかなか難しいと感じています。TOKAIさんは、ホワイト500に4年連続で認定されています。また、上場企業約3700社のうち40社ほどしか取得できない健康経営銘柄に選定されたということは、鶴田社長の指導力のもと、沼野さんが進めてきたTOKAIグループの健康経営の取り組みが正しい方向に進んでいることを社会的に評価されたということだと思います。

坂元 沼野様と初めてお会いしたのは2014年秋でした。健康診断や産業医(当事業部長)を保健事業部が担うことになり、事業部長から沼野様にお会いするようにと指示がありました。当時、私は聖隷労働衛生コンサルタント事務所の所長の任に就き、たくさんの事業所に関わり、特に労働安全衛生マネジメ

ントシステムの支援では、多くのノウハウを有していました。沼野様には、技術者として真摯に「健康経営」の導入を提案し、オリジナルの「健康経営マニュアル」の提供と説明、今後の活動の提案をいたしました。TOKAI様が健康経営を導入し、いずれは自律的に健康経営の運営がなされるべく、私も相当の覚悟でした。健康経営5年目で「健康経営銘柄2020」に初選定されたことは、感無量であり、コンサルタント冥利に尽きます。

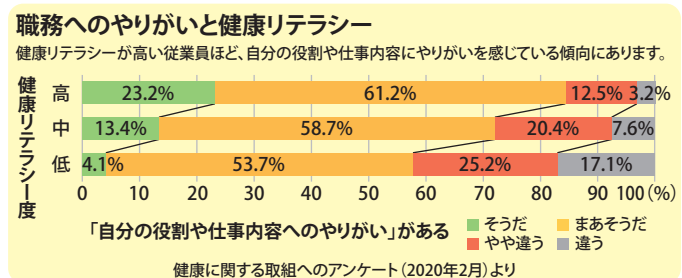
中西 理想的な活動ですね。特定保健指導で例えると、積極的支援から動機付け支援にシフトチェンジされたということですものね。真の意味での自律的産業保健の展開は、本当に難しいことです。

具体的実施内容・留意点について

沼野部長 健康経営を進める中で、全国140拠点ある各支店をどうするのかという問題がありました。そこで、ヘルスケア・リーダーを設置しました。そして、ヘルスケア・リーダーには社長の鶴田からの認定書をお渡ししています。「あなたは、トップから任命され、責務ある職場の健康経営を浸透させる役目を担うのですよ」ということを位置づけさせています。また、2019年度からは健康経営の施策実施において優秀な拠点への表彰制度を設けました。先日も、優秀なヘルスケア・リーダーを呼び、社長の鶴田より賞状を渡し、写真撮影なども行いました。一方で、喫煙に関しては、健保さんとコラボレーションし、協力していただきました。

井水常務 TOKAIさんは、健康経営に取り組む前は他社に比べ職員の喫煙率が高かったです。健保では、禁煙外来で禁煙に成功した方には補助金10,000円を出しています。また、ICTを活用し、遠隔で禁煙外来を受けられるようにしました。その費用については健保で7割負担しているのですが、コラボヘルスとして会社が3割を負担して実質無料で受けられるようにしました。会社の方では、「就業時間中は禁煙」、「喫煙場所は屋外も含め撤去」と動いていただきました。このような施策が本当にスピーディーですね。これはやはり、鶴田社長がトップダウンで「やるぞ!」と行っているのが、実働部隊も動きやすく、禁煙に対しては非常にスピーディーに進めていきました。やはり、目にみえて喫煙率が下がりました。その他、ウォーキングキャンペーンもTOKAIさんとコラボレーションして行っています。

沼野部長 喫煙率は、下がりましたね。15年度は35%くらいでしたが、昨年は15.1%でした。健保さんにも協力いただいて、4・5年前に比べたら、驚くような数値を出すことができました。また、聖隷の坂元さんから情報を教えていただきましたので、教えていただいた以上はやらなければならない。何のためにやり遂げるかといったら、今までのTOKAIグループの健康に対する意識を変えて、従業員が生き活きと輝いて働ける職場環境の構築です。健康経営の表彰制度や従業員の健康リテラシーなど見える形での指標があるので、さらに次を目指そうと思いました。次を目指すことによって従業員が幸せになっていくことはいいことですし、TOKAIグループの文化を変えることになると思うので躊躇は全くなかったです。



司会 今後、健康経営の取り組みを検討されている健康診断の担当者様に向けて、アドバイスなどございますか。

沼野部長 私たちは、医療業界は全く分かりませんので、聖隷さんなど、アドバイスを適切にいただける方、バックで支援していただける方がいないと困難だと思います。また、経営者に対して説明する時に、数値でわかりやすく説明できるかが大きなポイントだと思います。

中西 厚生労働省のコラボヘルスガイドラインによると、私たち外部の専門業者は「蓄積されたノウハウを提供するように」と明記されていますので、わかりやすく数値などで提示することも我々の役割だと思っています。

井水常務 健康経営は大事なことですが、わかりにくく、目に見えにくいものです。職員が病気になって立ちいなくなるまでは重要性が分からないという面があります。沼野さんが数値で見せていったことで、経営者や社内でも理解してもらえたのではないのでしょうか。やはりエビデンスがないといくら言ってもなかなか組織は動かないです。

今後の取り組み、聖隷に期待すること

沼野部長 課題は、一言でいうと「従業員の健康リテラシーを

100%にする」とことです。この言葉にすべての課題が入っております。喫煙率やストレス、運動習慣の問題などは、全部ここに入ってきますので、ここをやればクリアできます。しかし、健康経営をやることにより、どれだけ業績や生産性に直接つながっていくかということは、非常に目に見えにくいです。このあたりを目に見えるようにしていけないと、更なる推進は非常に難しく感じます。今後取り組んでいきたいことは、在宅勤務ならではの問題です。新型コロナウイルスの影響もあり、在宅勤務により運動不足の従業員が増えてきていますので、健康増進対策をしていきたいと思います。たとえば、グループにおいて心疾患脳疾患で倒れる職員が年間10名程度おります。そういった方をなくすためにどのようにしていくか。そこが、ひとつの目に見えた指標です。そして、健康に対する知識、意識を持っていただきたいので、認定資格である日本健康マスター検定(日本健康生活推進協会主催)の受検を推奨しており、新規管理職には「ベーシック」、ヘルスケアリーダーには「エキスパート」の知識を習得してもらいたいと思います。聖隷さんに期待したいことは、健康状態に合致した最新の健康増進の施策や提案です。「TOKAIグループはこのような傾向があるので、事業所にはこういった対策をとった方がいいですよ」といった提案や、支店ごとの支援をしていただけたら助かります。もう一つは、今後の健康経営、「NEXT健康経営」の道筋へのアドバイスをいただき、一緒になって本質の健康経営が遂行できるようにご協力をお願いしたいと思います。

井水常務 健保としては、今後も、健康リテラシーを高めていきたいと思っています。現在、健保では、40歳以上の扶養者の方に特定健康診査を年に一回受けていただくよう、無料券をお配りしています。しかし、実際に受けていただいているのは25%ほどです。ご家族が重篤な病気になった時は、絶対に生活基盤が乱れます。これは職員の生産性にも影響してくるはずで、このことから、ご家族の方の特定健康診査の受診率を上げていきたいと考えています。聖隷さんには、特定健康診査を受けやすくする環境づくりや、数値が悪い方に対する精密検査への受診勧奨などを期待しています。

中西 ありがとうございます。保健師として健康経営に取り組みながらも、先ほど沼野さんがおっしゃっていた脳血管疾患、心疾患で倒れられる方がおられるというのは、非常に衝撃です。やはり保健事業部といたしましては、重症化予防に力を入れたいと思います。



沼野 哲也 氏

株式会社TOKAIホールディングス
総務本部 人事企画部長



井水 博史 氏

静岡県石油健康保険組合
常務理事



坂元 富美夫

衛生管理者の学校
代表



中西 湖雪

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
保健事業部 事業管理部
保健看護管理室 室長(保健師)



司会 池田 孝行

聖隷予防検診センター
事務長